

今日のトピック 中国のGDP成長率（2015年7-9月期）

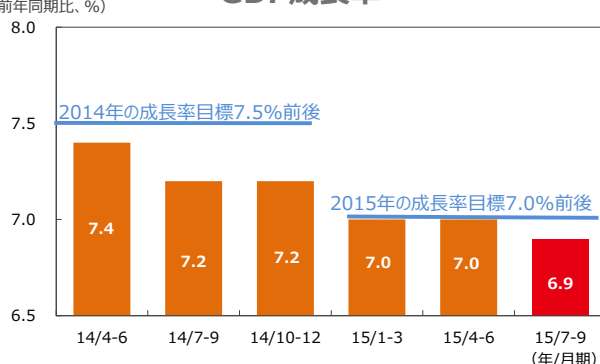
投資や輸出の減速により、成長率は6%台に鈍化

ポイント1 リーマンショック以来の6%台

消費などの第3次産業は底堅い

- 19日に発表された中国の7-9月期の実質GDP成長率は、前年同期比+6.9%と4-6月期から鈍化しました。消費などの第3次産業は底堅いものの、投資の減速や輸出の減少により、成長率が鈍化しました。6%台の成長率は、リーマンショックの影響から落ち込んだ2009年1-3月期以来です。
- ただし、市場予想（ブルームバーグ集計）の同+6.8%を若干上回ったことから、上海総合指数は発表後、上昇傾向となっています。

GDP成長率



(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

第2次・3次産業別GDP成長率（前年同期比）

主要産業 〔ウェイト：％〕	7-9月期 〔％〕	1-9月期 〔年初来、％〕
第2次〔40.6〕	5.8	6.0
第3次〔51.4〕	8.6	8.4

主要経済指標（前年同月比/前年同期比）

項目	2015年9月 〔％〕	1-9月期 〔年初来、％〕
小売売上高	10.9 (10.8)	10.5 (10.5)
鉱工業生産	5.7 (6.0)	6.2 (6.3)
輸出	▲1.1 (▲7.4)	▲1.8
固定資産投資 〔徐く農村部〕	-	10.3 (10.8)

(注) ウェイトは2015年1-9月期。()内はBloomberg L.P.の予想。
(出所) 中国国家统计局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 次期5カ年計画では、消費やサービス業を主軸に成長率目標は下方修正へ

- 26日～29日の共産党中央委員会第5回全体会議（5中全会）では、来年から始まる次期5カ年計画の骨子が固まる予定です。消費やサービス業などの第3次産業の拡大に引き続き重点が置かれる見通しです。
- 過剰生産設備削減などの構造改革も引き続き進める方針と見られ、経済成長率の目標が6%台に下方修正されるとの見方があります。

今後の展開

追加金融緩和と公共投資強化により、景気底割れ回避へ

- 地方政府債務の圧縮から不動産開発投資の抑制が続いていることや、鉄鋼業などの過剰生産能力を削減する必要から、鉱工業を中心とした景気減速は当面続く見通しです。
- 一方、市場では次期5カ年計画の重点政策への

期待が強まっています。PPP（官民連携）による公共投資拡大、国有企業改革、製造業の高付加価値化、一帯一路戦略の強化に加え、追加金融緩和による企業の資金繰りの下支えなどにより、景気の底割れ回避が見込まれます。

ここも チェック!

2015年 9月28日 最近の指標から見る中国経済（2015年9月）
2015年 9月 4日 中国の「政策運営と経済指標」（中国）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。